

弘前学院大学看護学部開設の意義



学校法人弘前学院
理事長・学院長
阿保 邦弘

一、看護学部要綱
弘前学院大学看護学部は二〇〇五(平成十七)年開設を目前とし、定員一〇〇名で収容定員四〇〇名と考えている。本学はキリスト教主義に基づき、高等教育機関であり、共に生きる「は建学の精神の重要な柱の一つである。看護職に求められる精神と建学の理念とは見事に一致するものである。さて、青森県における四年制看護学部の入学試験競争率を見ると、弘前大学保健学科看護学専攻定員八十名で、平成十四年度前期試験三・七倍後期試験八・九倍になっている。青森県立保健大学看護学部の場合、定員百名で前期試験三・七倍後期試験十五・二倍と非常に高い倍率である。青森県には現在四年制看護学部が前記二校しかないため、この競争率は変化することなく推移するであろう。このことから、本学が看護学部開設に至った場合は一定の応募者を確保できると思われる。

とここで、二十一世紀は生涯学習時代かつ知の時代となり各層から「看護に関する知識・技術の修得」が求められている。高齢者や准看護師はもちろんで、高等看護学校卒業生、現役看護師・保健師・助産師等も急激に進歩し複雑化高度化する医療知識・技能のリカレント教育を求めている。これらに二つの確に込めるためには、通学制のほか、通信制やパートタイム制等を取り入れることが望まれるところである。規制改革会議は、看護師養成課程の通信制を平成十七年から実施する方向で検討している。これは、「保健師助産師看護学校養成所指定規則の一部を改正する省令」で、改正の趣旨は国民が望む質の高い医療を提供するため、看護職員の資質の向上を図る方策の一つとして、准看護師が看護師の資格を得るための教育を受けることを推進する必要があること、しかしながら、准看護師が看護師の資格を得るための二年課程については、勤務場所の近くに学校養成所がない等の理由により、現に業務に従事している准看護師が勤務を遂行しながら通学することが困難である現状にある。このため、免許をえた後十年以上の就業経験を有する准看護師については、十分な実能力を有しているものと考えられることから、臨地実習を紙上事例演習、病院見学実習および面接授業で変えると共に、放送大学など他の教育機関における履修を認めるこ

第 16 号
編集発行
弘前学院大学
広報委員会
印刷所
(有)小野印刷所

とした通信制の二年課程を創設し、准看護師が看護師の資格を得るための教育の拡大を図るため、改正するとしている。本学においてもこの点は十分検討する必要がある。新学部の資格取得は、看護師・保健師・助産師国家試験受験資格、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格、看護教諭免許の取得を考えている。教育理念は、キリスト教に基づき、幅広い教養を養うと共に、看護の実践を基本とした高度な専門知識・技術、看護の援助を必要とする人々の立場にたち、科学的な判断に基づき、主体的な看護を展開する能力を養うことを重視した教育を行うものである。教育目標は速高い感性を持ち、深い人間理解や倫理観に養われた豊かな人間性を養う。隊主体性を持った看護の実践能力と看護を発展させる能力を養う。専門職としての責任を自覚し、リーダーシップを発揮できる能力を養う。調研究態度を涵養し、科学的根拠に基づいた総合的判断能力を持ち、さらに看護学の発展に貢献できる能力を養う。代自己成長を目指しつつ生涯学習を継続し、社会の変化に対応できる能力を養う。台国際的視野を持って活動できる能力を養う等である。

またその進路についてであるが看護は女子の職場と考えられてきたが、医療内容の著しい多様化に伴い、男子に対する需要も大きく強いものになっている。本学において男子の職場の一つとして定着すると同時に、新しい職場として拡大している。看護師の活躍が求められている分野としては、総合病院や診療所、小児病院、さらに近年特に地域社会の要請が高まっている身体障害者のリハビリテーションを含めた社会復帰施設や老人保健施設、訪問看護センター等の福祉関係機関からも、大きな期待が寄せられている。保健師は、保健所や学校、事業所、市町村役場、乳児院等が主な職場である。看護師と同様に介護支援センター等の福祉関係施設にも配置されるようになってきている。助産師は、病院・医院に勤務のほかに、助産院・を自分で開業することができ、最近では、病院での出産ではなく、助産師のもとで出産を求める人も増加している。

職員は全体として減少し、この状態が継続するとしている。そして、平成十七年以降は准看護師が減少するがこれは看護職員養成施設において、国の方針を受け教育・授業内容変更、授業総時間延長などに対応しきれず、やむなく准看護師養成施設の廃止、入学定員の削減を余儀なくされた結果と思われる。看護師養成校の場合、一年課程、三年課程では廃止、定員削減もあるが、県立保健大・弘前大学医学部保健学科によって、卒業生の数だけは相殺され、毎年ほぼ同数の看護師が輩出される。

また両校では、編入者の募集も開始されるが、それにしても数年後に十数名の増加にかならない。一方准看護師については卒業生数の減少が続くことになり、青森県においては全体として、看護職の不足を招くことになる。すなわち平成十七年以降では看護職員需給のバランスが崩れ、供給不足に陥ると推定できるとし、「看護職員減少」に対して六項目の方策を提言している。そのうち、「看護職養成校の新設」を考慮することが要請されており、本学はこの項目に応えようとするものである。

阿保邦弘理事長「県褒章」受賞す
県民の模範となり、又公共の福祉増進に貢献した個人・団体をたたえる、2003年度「県褒章」にこのたび本学院阿保邦弘理事長が選ばれました。永年、文化の発展に貢献した功績が認められたものであります。本学院にとりまして大変名誉なことでありま

尚、祝賀会は十二月十七日(水)午後6時 ホテルニユーキャッスルにて行われました。

英語・英米文学学科長 佐藤 和博
文学部活性化のために英語・英米文学科は次のプログラムを用意して学生に利用してもらっています。これはカリキュラム外のプログラムであり参加するかしないかは学生の自由にかかっています。父夏期集中英語講座について今年度は9/16、21まで開催。18名の受講生があり外国人講師2名の下、英会話、英作文、異文化理解の授業を8:

弘前学院大学国語国文学会の報告
日本語・日本文学科長 顧 偉良
弘前学院大学国語国文学会は、昭和四十七年に設立されて以来、三十一年の歳月を経た。その間、日本語・日本文学の教育・研究の推進に積極的に活動してきた。学会活動としては、毎年、春季・秋季に二回の発表大会を行うこと、そのほか、文学散歩を行うこととしている。今年度の活動は、以下のとおりである。

十月十九日、文学散歩を行った。今年、寺山修司の没後二十周年を迎えたということで、青森県近代文学館の主催、特別展「寺山修司展」を見学した。「特別展」には、小説・評論・随筆・詩・短歌・俳句・

共々学ぶことへの感謝
社会福祉学科長 田中 利宗
社会福祉学部の第一回生を社会に送り出して約八か月、「たいへんだ」という声、「仕事、楽しいです」という声。そのどちらの声からも充実した今が伝わってくるのです。「先生、国家試験の問題、この問題がよくわからないのです」と、分厚い専門書を抱えて来室する4年生。おもわず、その真剣なまなざしに圧倒さ

演劇・映画のジャンルに残した寺山修司の作品、また中学校時代の寺山修司の作文や成績表などの資料も展示された。中学時代の国語試験用紙の裏に書かれた詩は、鮮烈な印象だった。この日の文学散歩は、青森県立郷土館にも足を伸ばし、輝いた郷土の先人たち展、そして開館三〇周年記念特別展「蝦夷錦と北方交易」を見学した。江戸時代における北東アジアとの北方交易を知ることができ、一同は大いに勉強になった。

十一月一日(土)、第三十三回弘前学院大学国語国文学会秋季大会を行った。研究生2名、教員1名の発表があった。いずれも充実した内容の口頭発表で、発表後、活発な質疑応答が行われた。日ごろに打ち込まれた研究成果を大会に披露するのはたいへん意義のあることだと思ふ。今後も教育・研究の一層の発展を目指し、地域社会における本学の貢献に努力していきたい。

ところで、社会福祉の仕事は、長年の経験のみでも十分できる」という時代から、知識と技術を持ち、さらに、その土台に、人間を尊ぶ倫理観と価値観を身につけた専門家が求められるようになってきました。社会福祉学部は、その土台を修得できる貴重な学びの場なのです。

土台は、在学生、卒業生、教職員、そして、この時報を手にされたおひとりおひとりによってつくられ、語られ、伝えられているのです。

この歴史と環境の中で、卒業生、そして、在学生と共に学び合えることに心から感謝する私です。

第五回 つがる福祉フォーラムに出席して

社会福祉学部長 前田 敏雄

去る十一月二日日本学つがる福祉創造フォーラム学生実行委員会と社会福祉教育研究所の主催で「第五回つがる福祉創造フォーラム」が体育館を会場として開かれ、今回のテーマは「西弘前地区のバリアフリーの促進」がとりあげられました。

フォーラムというのは、一つ的话题を中心にして討議する形式で、公開討論会を意味しており、もともと、これは、遠く古代ローマの公共広場を称したことに由来するという事です。

当日、七六人の参加者があり、その内わけは、主催学生メンバー七人、ボランティア学生十一人、本会メンバーやボランティア以外で参加した学生六人、教職員八人、本学卒業生七人、西弘前地域住民十九人、政策マーケティング委員会からの九人でした。

いろいろカタカナ語での表現が多いですが、政策マーケティング委員会というのは、青森県庁の若手職員がグループの発案で、住民の生活満足度の向上を目指す行政のあり方を探す活動で、平成十一年に県が県民の代表や専門家に委嘱して発足した第三者機関とのことです。今回の会議は、ここから参加して下さった方々が大きい張り切って、皆で西弘前地区のバリアフリーをどのようにしていったらよいかということ話していただきました。

いま、世の中は、新しい方向に時代の流れが勢いを増しています。バリアフリーというのもひとつの特徴で、新しい方向づけに必要ないバリア(障壁)をなくして、お互いに気持よく生活ができるようにしていこうということなのです。

地区別父母懇談会無事終了

今年度は、十月の日曜日、四日間を利用して、弘前、青森、盛岡、秋田の四地区で実施しました。

懇談会では、学生生活、学業成績および就職問題等について、父母、教員および就職課の職員の間で円滑な話し合いを持ちました。大学側としては、父母の方々が日ごろ抱えている悩みや問題点などの関係情報を事前に集め対応しました。当日の父母および大学側教職員の出席者は、次の通りです。

父母	六十八名
大学教職員	十一名
秋田地区	十月十九日(日)
父母	十一名
大学教職員	五名
青森地区	十月二十六日(日)
父母	二十二名
大学教職員	五名

父母・教職員研修会の報告

今年度は、「青森県の文化を理解する」というテーマのもとに、十月十一日(日)本学体育館で、東通村鹿橋青年会の



父母・教職員研修会の様子

能舞を鑑賞いたしました。また、当日は弘前学院大学の学祭も行われていることもあり約二〇〇名の父母、学生

よく生活ができるようにしていこうということなのです。

この世の中は、じつに様々な人たちがよって成り立っています。男女、大人、子ども、高齢者、若者、健康な人、病人、障害のある人、障害のない人、背の高い人、背の低い人、肥っている人、やせている人、そこに昔から住んでいる人、最近移ってきた人、外国人、旅人、学生、主婦、商人、サラリーマン、役所つとめの人という具合です。そして、そのひとりひとりが人生をおくっています。

そこで、各人が互に持った味を生かして、よい能力を最大限に発揮し、共栄していこうという考えにもとづいて、バリアフリーをはじめ、男女共同参画、男女雇用機会の均等、インフォームドコンセント、ノーマライゼーション等が云われています。

今回のフォーラムでは、参加者が数人づついくつかのグループに分かれて、住み易く、活動し易い西弘前地域をつくる話し合いがおこなわれました。一例をあげると、安心して歩行できる道路を確保するために、車の駐車や自転車駐輪のあり方、街路灯などの通路の整備、街の案内板を大きく設置したらどうかなどの意見も出されました。

会議は、政策マーケティング委員会の方たちがリードして討論がすすむられ、生活改善の課題抽出と、それらの具体的な解決に、できるかぎり地域の自発的な取り組みを大切に、住民主体ですすめていくという方針が打ち出されました。ここで話しあわれた内容は、近日中にこの委員会の方で印刷物にして刊行されるということです。

今回この会に出席して、本学の学生の努力を中心として、このような郷土の発展をテーマとする会が催されたことは

教職員、地域の方々の来場がありました。



からにほかならない。昨年度、まだ館長就任など想像すらしていなかった頃、予算委員会が図書館予算の増額を主張したが、皮肉にも、今年度は、館長として、状況がほとんど好転してないことを痛感させられるところとなった。確かに、「父母と教職員の間」の予算で若干の上乗せはあった。しかし、経常費の配分は昨年並みであるところ、折しも、今年度は数年一度の製本の年にあたり、その費用が前記上乗せ分とほぼ相殺になるため、書籍購入費は実質横ばいにとどまざるを得なかったのである。

大学全体の予算(パイ)が増大しない(むしろ縮小した)という状況下で、それをいかに配分するか(パイを切り分けるか)は難問中の難問ではあるが、だからこそ、知の共同体であるべき大学ならではの知恵を働かせる必要が、あるのではないかと、思うに、学部など各セクションの予算は

図書館長を仰せつかって半年あまり、専ら、図書館運営委員・図書館員諸氏のご尽力により、図書館運営は順調である。しかし、喜んでいられる状況にあるのだろうか。

わが図書館は危機に瀕している。寂しいことに、一言で言えば、図書館予算が頭打ちになっている

意欲深く、さらに多数の学生が参加して、社会福祉援助技術の勉強の場として学んでほしいと思います。学生諸君には、殆んど夏休みを返上ままでして、会議の計画、立案から、会場つくりに至るまで努力した人もいます。ぜひともこの話し合いを、フォーラムの話し合いのための話し合いにとどめることなく、実行に移していく段階でも地域や行政の方々と共に参加して成果をおさめられるよう期待したいと思いをしました。

硬直化してないだろうか。具体的にいえば、各学部・学科が別個に消耗品などの名目で予算を計上していることに強い疑問を感じずにはいられない。すべてを吐き出せという訳にはいかずとも、一定額をプールし、学部学科間で共用したり融通し合ったりといった知恵を働かせられないのだろうか。年度末に予算消化の名目で、それを使えばそのままログハウスでも建つかと思われ、一生使い切れないほどロップビー・ディスクを買い入れる。おぞましい光景ではないか。今からでも遅くない。無駄な予算消化はやめ、「消耗品」ではない書籍購入のため一円でも多く振り向けられないものだろうか。

予算を消化しないと次年度予算が減らされる。そんな思いが、大学にあっても、お役所仕事で年度末に道路を掘り返すような真似をさせているかもしれない。しかし、当初予



公開講座の様子

公開講座委員会の事業

今年度、公開講座委員会では、以下の事業をおこなった。

今年度は、文学概論B、英米文化演習(異文化理解)、教育と人間、レクリエーション指導法、心理学など三十七の講義を開放している。受講者は延べ二十四名、実人員九名である。わずかながらも地域社会への貢献ができたと考えている。

符高校生対象の公開講座(通称、出前講座)

今年度は十月二十一日に、

今年度は、十月二十一日に、

今年度は、十月二十一日に、

今年度は、十月二十一日に、

今年度は、十月二十一日に、

今年度は、十月二十一日に、

今年度は、十月二十一日に、



国会議員誕生の様子

国会議員誕生

仲野ひろ子(旧姓浜田博子)さんが北海道七区で初当選を果した。仲野さんは青森県出身で一年英米文学科を卒業、結婚のため根室に転出。根室市議に三期当選後の快挙となった。



国会議員誕生の様子

今年度の衆議院選で本学出身の仲野ひろ子(旧姓浜田博子)さんが北海道七区で初当選を果した。仲野さんは青森県出身で一年英米文学科を卒業、結婚のため根室に転出。根室市議に三期当選後の快挙となった。

今年度の衆議院選で本学出身の仲野ひろ子(旧姓浜田博子)さんが北海道七区で初当選を果した。仲野さんは青森県出身で一年英米文学科を卒業、結婚のため根室に転出。根室市議に三期当選後の快挙となった。



国会議員誕生の様子

文学部で弘前大学との単位互換制度実施

関係者がかねてから弘前大学と積極的にすすめてきた単位互換制度が、今年度後期から文学部で両大学の学生が参加し、正式に実施されることになった。この制度は、両大学がそれぞれ足りない分野を補完し合い、学生の資質を向上する策として、関係者から期待されていた制度である。それがいよいよ今年度後期から実施されることになった。

新聞やテレビなどで報道されたように、平成十五年三月に、単位互換制度の協定書に両学長がそれぞれ調印し、同制度は、四月一日より発足していたが、初年度のため両大学の受け入れ態勢が整わないことから、その実施は今年度の後期に持ち越されていた。

今年度は、実施の遅れもあって、本学から弘前大学の単位互換を希望し派遣される学生は、二年次一名、三年次二名、計三名で、履修科目は延べ六科目であった。一方、弘前大学から本学への希望学生は、農学生命科学部一年一名、人文学部二年一名、計二名で、延べ三科目であった。

この互換制度を利用するにあたって費用は一切かからず、学生に奨励してもよい制度である。

互換制度で本学において弘前大学の学生を受け入れる授業科目として、「キリスト教文化」はじめ、「地域研究」など「一般教育科目」を中心に二十科目が用意されている。

また、弘前大学で本学学生の履修を許可する科目は、以下の九十六科目である。「基礎科目」としては、「哲学の基礎」をはじめ、「言語学」文学、芸術学、心理学、教育学、漢文学の《文化系基礎科目》、会計学、経営学、経済学、社会学、政治学、地理学、法学、歴史学の《社会系基礎科目》、数学、物理学、化学、生物学、情報処理論の《自然科学基礎科目》というように文化、社会、自然の三系列、延べ二十八科目となっている。

「テーマ科目」としては、「国際社会の現在」などの《国際》に関する六科目、「情報ネットワーク」など《情報》に関する七科目、「二十一世紀の環境問題」など《環境》に関する七科目、「生活習慣と健康」など《健康》に関する十五科目、「科学技術の発達」など《科学》に関する十科目、「国家と政策」など《社会》に関する八科目、「美術の世界」など《文化》に関する七科目、「人を育む営み」など《人間》に関する八科目とい

「学祭を通して」

学祭実行委員長 小倉 夕也
(社会福祉学部3年)

私は、今年初めて実行委員を務め、しかも実行委員長という大役を務めることになり、学祭の開催に向けて準備に取り組んできました。今年度の学祭実行委員は、私を含め二二名で、そのうち昨年の実行委員はわずか一名だけでしたので、何もかも初めて行う作業ばかりでした。そのため、準備が円滑に進まないことが度々あり、実行委員同士の意見の食い違いもよくおこりました。

今年の学祭は、例年よりも賑わいを感じられるように、そして多くの方々に足を運んでいただくことを目標に準備を進めてきました。この目標は、どこの学園祭にも共通する目標だと思えます。しかし、それを達成するためには、たくさん

の時間をと努力を要する。その努力が実り、当日は多

くの方々にご来場いただくことができました。初日は天気にも恵まれ、各サークルなどの模擬店も多くのお客様が利用していただき、大変盛り上がりしました。二日目は、生憎の雨で、初日に比べると来場者はあまり多くありませんでしたが、予定通り学祭を行うことができました。

実際、当日の学祭を迎えてみると、それまで計画していたことや、予定していた事とは

全く違うことが起こってしまつたり、すべてうまくいくことばかりではありませんでした。しかしながら、なんとか対処法を自分たちで見つけ出し、改善していくことができたと思えます。

無事学祭が終わり、今改めて振り返ってみると、普段の生活では味わえないようなことをたくさん経験できたように思います。たとえば、いつもとは違う仲間の姿に驚かされ

「海外研修INシドニー」

社会福祉学部四年 小坂 弥久

今年の海外研修は、オーストラリアのシドニーで行われました。二月八日の寒い日本を出発して九時間後、私たちは真夏のシドニーに降り立ちました。

シドニーには約二週間滞在し、午前は語学研修としてユニヴァーサル・イングリッシュ・カレッジに通いました。ここでは英語を学ぶために世界各国の人たちが通っており、先生もオーストラリア人であるため、授業はすべて英語で行われます。しかし、授業はとても楽しく、違つた国の友達もできたことで本当に充実した時間を過ごすことができました。

そして午後は、福祉研修として知的障害者更生施設と児童の放課後支援を行っている

「海外研修に参加して」

英米文学科三年 安田さおり

二月から三月にかけてパージニア州のシエナンドラ大学の海外研修に参加しました。毎日少しずつ英語が話せるようになっていくのを感じることもできる三週間でした。

研修中は二人一組で別々の家庭にホームステイをしました。ステイ先で一語の先輩と二人で話すときもできるだけ英語で話すこと、そしてステイ先では積極的になるよう決めました。自分からお願ひして買物に連れて行ってもらったり、遠慮しないことでホストファミリーと楽しく過ごすことができました。文法の間違ひなんて気にせず、何よりも相手に伝わるのが大切なのです。

学校は毎日九時から十六時まで。内容は実用的で楽しいもの。リズムと歌が英語を話すうえで大切なことです。ランチは大学のカフェテリアでバイキング形式。そこでは友達を作るチャンスも。午後からは学外での研修と観光。物の単位や値段を実際にマートで探してみたり、州の歴史や特徴を学ぶための観光をした。

観光旅行では得られない貴重な異文化を体験することができました。

就職課だより

就職課長 福井 修

インターンシップについて皆さんは「インターンシップ」とは何が知ってますか？アメリカで始まった制度で、学生が在学中に教育の一環として一定期間就業体験を行うとの違いは、アルバイトでは単に労働の対価を得ることが目的ですが、インターンシップでは仕事の経験を通じて自分の仕事適性を知ること、その仕事の体験を内定のステップにすることが出来ます。

今年の4年生の中で早めに内定を得た学生の中には、昨年3年次にインターンシップを経験した学生がおりました。就職試験の際にその経験が役立つものと思われま

います。シドニーでの生活は私の一生の宝物となりました。みなさんも一生の思い出にぜひ行ってみませんか？

今年度採用試験対策講座について

「教員採用試験対策講座」今年度初めての試みとして七月に教員採用試験受験者のために、「直前対策講座」を実施しました。

又、十月より十二月までの

「教員採用試験対策講座」今年度初めての試みとして七月に教員採用試験受験者のために、「直前対策講座」を実施しました。

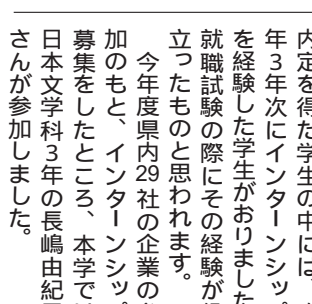
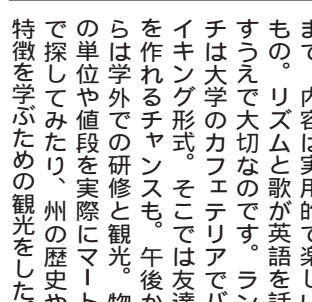
又、十月より十二月までの

16年度教員採用試験の結果について

英文科新岡さん合格！

七月に行われた16年度教員採用試験の1次試験合格者は、英文科3名、日文科1名の計4名でした。更に、九月二十日から二十一日に2次試験が行われました。その結果が発表となり、英文科の新岡瑠璃子さんが見事合格しました。平均15倍という狭き門の中、又合格者の中で現役の割合は約1割という厳しい中での合格は快挙です。

就職課では、進路、就職その他相談に応じています。又、就職活動に関する具体的な情報は就職資料室に、採用情報については掲示板に掲示されておりま



島山文学部長博士号取得

島山篤文学部長は、平成十五年七月、母校国学院大学から「沖繩の祭祀伝承の研究―儀礼・神歌・語り―」という論文で、博士(民俗学)を取得した。同氏は、秋田県大館市出身で国学院大学大学院博士課程を終え、沖繩国際大学教授を経て、昭和六十一年に本学に迎えられる、主に古代文学と民俗学を研究していた。民俗学関係の主要著書に「沖繩県久高島の民俗」(昭和五十九年、白帝社)、「久高島の祭り伝承」(平成三年、桜楓社)、「伝承文化の展望」(平成十五年、三弥井書店)などがある。

博士論文は、これまでの研究を大成し、沖繩の祭祀伝承を「儀礼」「神歌」「語り」の視座から論議したものである。沖繩島の島嶼部に分布するそれぞれの祭りの「儀礼」「神歌」「語り」にかかわる現行の伝承を著者自身が昭和五十四年から今日まで丹念に探訪し、先行研究のうえに立って、歴史的、かつ構造的に分析した、先駆的で高く評価できる論文となっている。その論文は、明年出版されることになっている。

なお、同氏は平成十五年四月から本学文学部長を務め、本学の改革と大学院文学研究科の増設に尽力している。

就職課では、進路、就職その他相談に応じています。又、就職活動に関する具体的な情報は就職資料室に、採用情報については掲示板に掲示されておりま

又、十月より十二月までの

『教職員研修会』

宗 教 主 任 中 澤 實 郎

弘前学院大学は、キリスト教を基盤にして教育を行う高等教育機関であります。最近では全国のキリスト教大学でもその事実を知らないで入学してくる学生が多いと言われております。この現実には教職員は対応せねばならないのです。そのために、弘前学院では、宗教学委員会の任務として年に二回、春の創立記念礼拝の時と、秋の特別礼拝の日に、教職員研修会を実施しています。教職員は、キリスト教の精神に基づいて教育をするのが、この大学の基盤だからです。従って、キリスト教の精神とは何か、を会得する必要があります。

報告と予告 地域総合文化研究所

縄文土偶は女性によってつくられていた。殆どが妊婦の形をしている。そうであるなら、何を縄文人が祈願したかが知れる。藤沼邦彦氏による「土偶と祈り」の講演は十月十四日、学祭の日に開催された。豊富な資料が配布され、出席者は大いに学ぶことができた。

芸術の創作は個人の営為でありながら、行政が公の立場で関わる。文化庁が、県市町村の文化課がどのように施策を立てるべきなのか、住民は何をどこまで行政に期待できるのか。静岡芸術大学の小林真理氏は九月十三日の講演会で、鋭く問題にメスを入れて分析し、方向性を示した。文化・芸術に関心のある者は聞き逃さない討論も行われた。

『地域学』の第二号にはこれらを含めた魅力ある内容を収録・編集して出版したい。昨年出版した創刊号は三ヶ月で完売した。それに続くように、学

ちなみに、最近の主題と講師を紹介いたします。「キリスト教信仰と現代科学」 隅谷三喜男氏、「社会福祉の課題」 阿部志郎氏、「キリスト教とハンセン病」 荒井英子氏、「生と死と愛」 宮崎亮氏、「変わりゆく大学における教師の使命と課題」 土戸清氏、「学校の戦争責任」 中山弘正氏、「エゴロジの視点からキリスト教の自然観を見直す」 高橋敬基氏、「日本のキリスト教大学は存続か絶滅か」 古屋安雄氏、「賀川豊彦の理念と社会運動」 野村誠氏、「カウソセリグと人権」 出村和子氏、「信託された人権」 深谷松男氏、「生と死」 キリスト教倫理の課題」 船本弘毅氏、「西と東の、そして北の被差別部落」 小笠原亮一氏、「価値と価格」 金澤氏、「賛美する信仰」 川端純四郎氏などです。

会誌や学内紀要とはおもむきの違った、一般の読者にも読まれる書物として書店に並ぶはずである。

学内の研究、学外からの参加も含めて、総合的に文化を研究して「地域総合文化研究所」の名にふさわしい事業を展開したいと考えている。

これからの企画を以下に予告する。

・中弘南黒における福祉活動 都築光一(社会福祉学部 講師)

平成一五年二月六日(土) 一四・〇〇〇 礼拝堂

・津軽の方言「今村かほる」文 学部助教授)

平成一六年一月二四日(土) 一四・〇〇〇 一五番教室

・佐々木五三郎と東北育院 工藤睦男

(社会福祉学部教授)

日時未定

・津軽の民俗世界」 野本寛一氏(近畿大学教授)

ドミニカ共和国訪問からの報告

社会福祉学部 教授 大井 英子

ドミニカ共和国は、カリブ海に浮かぶイスパニョーラ島の東2/3を占め、日本の九州と高知県を併せた広さである。西部はハイチと境を接している。スペインの旧植民地からキリスト教の自然観を見直す。高橋敬基氏、「日本のキリスト教大学は存続か絶滅か」 古屋安雄氏、「賀川豊彦の理念と社会運動」 野村誠氏、「カウソセリグと人権」 出村和子氏、「信託された人権」 深谷松男氏、「生と死」 キリスト教倫理の課題」 船本弘毅氏、「西と東の、そして北の被差別部落」 小笠原亮一氏、「価値と価格」 金澤氏、「賛美する信仰」 川端純四郎氏などです。

4年前から、日本の国際協力機構(旧国際協力事業団)青年海外協力隊のソーシャルワーカーに延べ6人が、同国の首都サンクト・ドミンゴとその近郊で活動している。国立児童相談所に配属されているソーシャルワーカーから、同相談所ソーシャルワーカーとして、筆者は他の2名のワー

ドミニカ共和国は、カリブ海に浮かぶイスパニョーラ島の東2/3を占め、日本の九州と高知県を併せた広さである。西部はハイチと境を接している。スペインの旧植民地からキリスト教の自然観を見直す。高橋敬基氏、「日本のキリスト教大学は存続か絶滅か」 古屋安雄氏、「賀川豊彦の理念と社会運動」 野村誠氏、「カウソセリグと人権」 出村和子氏、「信託された人権」 深谷松男氏、「生と死」 キリスト教倫理の課題」 船本弘毅氏、「西と東の、そして北の被差別部落」 小笠原亮一氏、「価値と価格」 金澤氏、「賛美する信仰」 川端純四郎氏などです。

部・サークル紹介

茶道部部長 曾我 俊介

(社会福祉学部3年)

今年度の弘前学院大学「表千家茶道部」の活動は、月・水・金の週三回で、男子四名、女子九名の計十三名の部員で稽古に励んでいます。

月曜日の稽古では、斎藤春美先生、木村裕子先生の二人の先生に指導していただいております。斎藤先生は茶道の良い伝統をそのまま教えて下さり、木村先生は斎藤先生のお弟子さんであり、現代の若者に対して分かりやすく教えて下さいます。この二人の先

卒業生からのメッセージ

2003.3月社会福祉学部卒業生として、精神保健福祉士を目指して大学で学び、無事に国家試験をクリアすることが出来ました。

卒業後は、右も左もわからないままに就職し、精神保健福祉士として精神障害者地域生活支援センターで働いています。

社会に出てみて感じたことは、机の上で学ぶ専門知識も大事ですが、やはり利用者一人一人を理解する気持ちや真剣に向き合う気持ちが大事だと言っています。利用者に向き合うことで正直、精神的に消耗することもあります。その分関わりの中で一つの課題をクリアすることに利用者とともに喜び合えることを実感しています。

資格を取ることがゴールではなく、資格を取って利用者に関わり合っていくなかでい



今までは、精神保健福祉士を目指して大学で学び、無事に国家試験をクリアすることが出来ました。

卒業後は、右も左もわからないままに就職し、精神保健福祉士として精神障害者地域生活支援センターで働いています。

社会に出てみて感じたことは、机の上で学ぶ専門知識も大事ですが、やはり利用者一人一人を理解する気持ちや真剣に向き合う気持ちが大事だと言っています。利用者に向き合うことで正直、精神的に消耗することもあります。その分関わりの中で一つの課題をクリアすることに利用者とともに喜び合えることを実感しています。

資格を取ることがゴールではなく、資格を取って利用者に関わり合っていくなかでい



私が入社した東芝メディア機器(株)は、パソコンのドライブなどをつくっている会社です。五月に正式入社し、はじめに生産管理部に配属になりました。そこでは中国の工場に出す生産計画を作る仕事にたずさわっていました。時に深夜十二時を越えるまで残業することもありました。やりがいがあり充実していましたが、現在は十月一日付で部署が変わり、東京都にある調達部でバイヤーをやっています。工場でものをつくるための部品を調達する仕事で、私はコンデンサやスイッチなど電子部品を担当しています。入社してから今まで分からない



懐かしき日々

とわの森三愛高等学校 教諭 八木 啓太

私が弘前学院大学を卒業してから半年以上経ちました。桜咲く弘前公園や雪残る若木

今年で結成五年になります。続けている限り少しずつでも上達しながら、人形劇披露を行っていきたくと思っています。

山。赤く実った林檎の木々など、懐かしき弘前の風景が今でも懐い出されます。

大学時代を振り返ると、今村ゼミにおいて良き仲間と学んだことが一番の幸せであったと思います。

その過程で身につけた精神や友情は、かけがえのない財産として、人生の様々な局面で心の支えとなり、自信と勇気を与えてくれております。

そして現在、高校教員となり「先生」と呼ばれるようになって、はや半年。未だ気恥ずかしさが取れないながらも「先生」として、「先」を「生む」つまり、未来を創造する人間を育てる存在となるべく、試行錯誤しつつ、振り返り反省しながらの日々を送っています。

彼らの生活を通して、自分の高校・大学生活を懐い出しながら、日々共に成長して歩んでいきたいと思っています。

今後も変わることなく弘前学院大学の輝かしき歴史と良き伝統が築かれていかれますことを願い、また外からではあります、弘前学院大学を見守り応援していきたいと思っております。

(2003.3月日本文学卒)

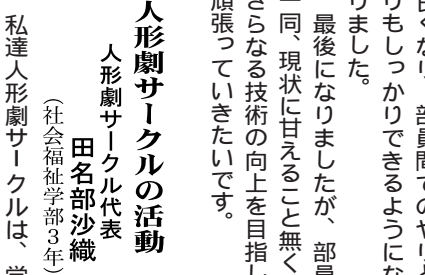


人形劇サークルの活動

人形劇サークル代表 田名部沙織

(社会福祉学部3年)

私達人形劇サークルは、学



卒業生からのメッセージ

2003.3月社会福祉学部卒業生として、精神保健福祉士を目指して大学で学び、無事に国家試験をクリアすることが出来ました。

卒業後は、右も左もわからないままに就職し、精神保健福祉士として精神障害者地域生活支援センターで働いています。

社会に出てみて感じたことは、机の上で学ぶ専門知識も大事ですが、やはり利用者一人一人を理解する気持ちや真剣に向き合う気持ちが大事だと言っています。利用者に向き合うことで正直、精神的に消耗することもあります。その分関わりの中で一つの課題をクリアすることに利用者とともに喜び合えることを実感しています。

資格を取ることがゴールではなく、資格を取って利用者に関わり合っていくなかでい